

2013 年度 武蔵大学 FD 関連資料

1. 会議記録等（委員名簿、FD 委員会議題、FD 実施委員会議題）

【2013 年度 FD 委員会】

役職	氏名
委員長	清水 敦（学長）
副委員長	西村 淳子（FD 実施委員長）
委員	黒坂 佳央（経済学部長、経済学研究科委員長）
	踊 共二（人文学部長、人文科学研究科委員長）
	江上 節子（社会学部長）
	伊藤 成康（教務部長）

FD 委員会議題

■平成 25 年度第 1 回 FD 委員会議題

平成 25 年 6 月 20 日（木） 12 時 10 分～

＜審議事項＞

A-1 2012 年度授業評価アンケート 2 次分析の件

A-2 2013 年度 FD 実施計画の件

＜報告事項＞

B-1 授業評価アンケート「自由記述」フィルタリングについて（依頼）

B-2 その他

■平成 25 年度第 2 回 FD 委員会議題

平成 26 年 2 月 20 日（木） 12 時 00 分～

＜審議事項＞

A-1 武蔵大学教育改善活動助成規程制定の件

A-2 「学生による授業評価アンケート」取扱内規一部改正の件

＜報告事項＞

B-1 平成 25 年度事業報告書／平成 26 年度事業計画書について

B-2 その他

【2013 年度 FD 実施委員会】

役職	氏名	
委員長	西村 淳子	
委員	経済学部	河合 康夫
		古瀬 公博
	人文学部	漆澤 その子
		武田 信子
	社会学部	奥村 信幸
		矢田部 圭介
	経済学研究科	古瀬 公博（兼務）
	人文科学研究科	小川 栄一

FD 実施委員会議題

■平成 25 年度第 1 回 FD 実施委員会

平成 25 年 4 月 18 日(木) 14 時 40 分～

<議題>

- 1 平成 25 年度 FD 実施委員会体制について
 - (1) 委員について
 - (2) 開催日程等について
 - (3) 業務分担について
- 2 平成 25 年度授業評価アンケートの内容について
- 3 その他

■平成 25 年度第 2 回 FD 実施委員会

平成 25 年 6 月 6 日(木) 14 時 40 分～

<議題>

- 1 FD 図書コーナーの図書選定について
- 2 2013 年度授業評価アンケート実施要領について
- 3 2012 年度授業評価アンケート 2 次分析について
- 4 授業評価アンケート閲覧規程制定について
- 5 大学院 FD 懇談会について
- 6 第 1 回 FD 研修会について
- 7 大学院個別相談制度について
- 8 その他

■平成 25 年度臨時 FD 実施委員会議題

平成 25 年 10 月 1 日(火) 12 時 10 分～

<議題>

- 1 平成 26 年度予算案について
- 2 FD 教育改善活動助成について
- 3 その他

■平成 25 年度第 3 回 FD 実施委員会議題

平成 25 年 10 月 17 日(木) 14 時 40 分～

<議題>

- 1 FD 活動報告書について
- 2 武蔵大学教育改善活動助成について
- 3 第 1 回 FD 研修会について
- 4 ワークショップ「簡単に斬新な教材の作り方」について
- 5 授業評価アンケート閲覧規程制定について
- 6 授業評価アンケート 2 次分析について
- 7 FD 関係図書見計らいについて
- 8 大学院 FD 懇談会報告
- 9 その他

■平成 25 年度第 4 回 FD 実施委員会議題

平成 25 年 11 月 21 日(木) 14 時 40 分～

<議題>

- 1 武蔵大学教育改善活動助成について
- 2 武蔵大学「学生による授業評価アンケート」取扱内規一部改正について
- 3 授業評価アンケート 2 次分析について
- 4 平成 25 年度第 2 回 FD 研修会 (FD フォーラム) について
- 5 大学院 FD 懇談会報告
- 6 その他

■平成 25 年度第 5 回 FD 実施委員会議題

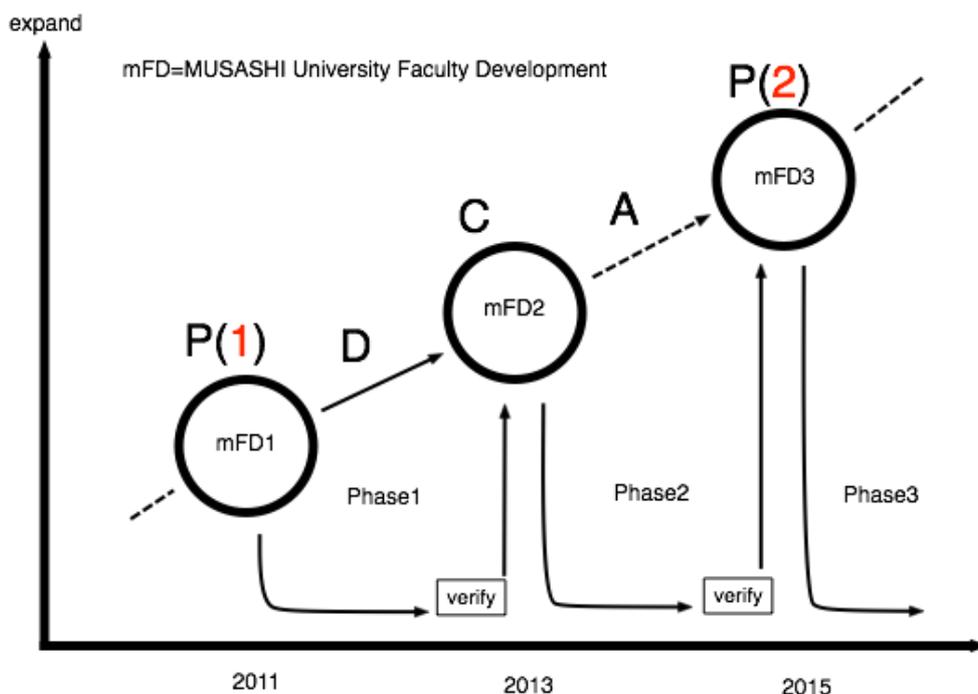
平成 26 年 1 月 23 日(木) 14 時 40 分～

<議題>

- 1 武蔵大学教育改善活動助成について
- 2 武蔵大学「学生による授業評価アンケート」取扱内規一部改正について
- 3 平成 25 年度第 2 回 FD 研修会 (FD フォーラム) について
- 4 2013 年度 FD 活動報告書構成案について
- 5 その他
 - (1) FD 研究員からの報告

2. FD 研究員報告（武蔵大学の PDCA）

武蔵大学のFDに関する検証と発展は、FD委員会・FD実施委員会を中心に、PDCAサイクルのもとと推進されている。武蔵大学には、多くの教育改善や教育開発の事例があることが再評価されてきたが、これらを全学的な情報共有としてPDCAスパイラルを押し上げていくためには、具体的な検証項目をあげていかないと、これまでと同じように各教職員が個人単位で対応してきた手法のままで、全学的なものとして構築されていかない。FD新体制として、3期目を迎えることになり検証の具体性やFDに関する実施の量、質がこれまで以上に問われるようになるであろう。



様々なアンケートをはじめとしたFDツールや、その結果を各部局が連携しながら課題の抽出と対応を速やかに行ってきた。FD実施委員会を中心に、例えば以下のようなものである。

表. 武蔵大学のFD・SDに対する具体的な対応の一例

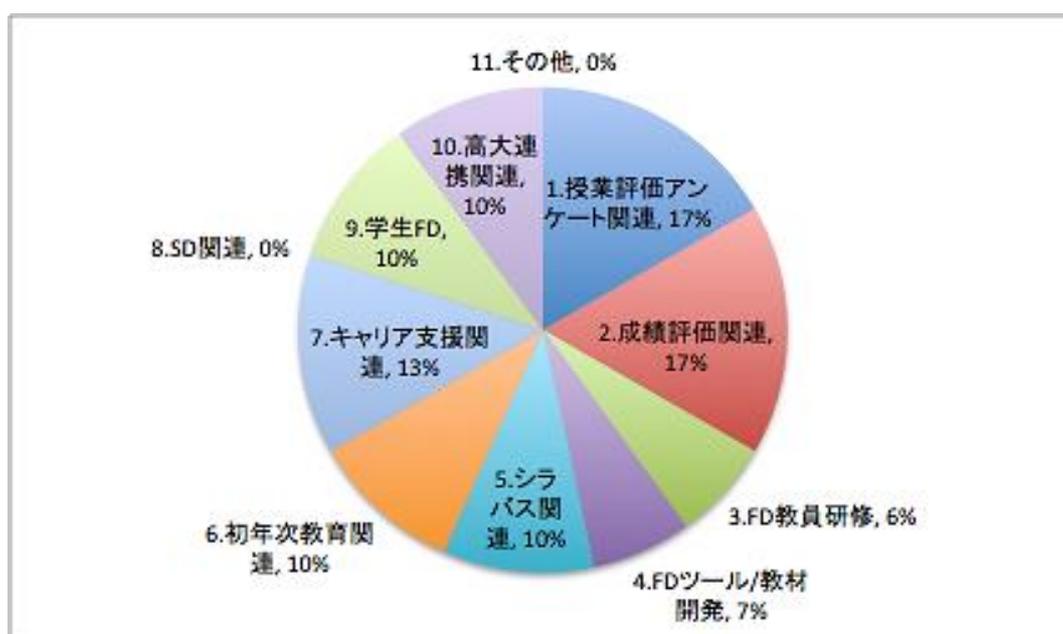
対象	課題・要望	対応
学生	アンケートの内容が適当でない	アンケート項目の逐次改善
	教室の空調が悪い	施設課に依頼し、即時改善
	学生の意見を伝える場がない	学生FDフォーラムの実施
	大学院生の対応の脆弱性	大学院FD懇談会の開催・個別対応
	アンケート結果を閲覧したい	Web公開
教員	アンケートの回数が多い	実施回数を半減し、分析の充実や多角的FD活動の展開
	教員の意見が反映されにくい	教員対象のアンケートを実施（任意）

	実学的なFD研修を希望	学内教員による研修会の実施、企業の招聘
	学内に教員用FDの空間がない	図書館にFD支援コーナー設立、プロジェクトルーム設置
	他校の状況を知りたい	FD研究員制度の設置
職員	SDの関心が低い	研修会のテーマを職員が参加しやすいものに設定（GPAに関するものなど実施）

これまで、多くのユニークな教育的な取り組みが古くから行われており、ワンキャンパス、少数学部という教育環境から事務職員間および教員-事務職員間のお互いの把握が他大学より緊密性が高い。学部・学生数の多い総合大学では、学部や学科単位で独立運営に近いマネジメントがされていることが多く、FDもその単位に準拠しているケースが多い。武蔵大学は、そういった意味では、教職員および教員-学生間の距離が近いので、学部を超えて問題・課題の情報共有が出来る環境にあるため、FDとしては理想的な環境にあるといえる。一方で、FDの共通認識の低さ、“ゼミの武蔵”の教育の具体的なブランド化という方向性のベクトルが、次の大きな課題としてあげられる。武蔵大学の既存の教育資産を活かして発展させていくというFD基本指針に則った、コンテンツは多く存在するので、それらをFD活動として学生に還元していくシステムを作る必要がある。

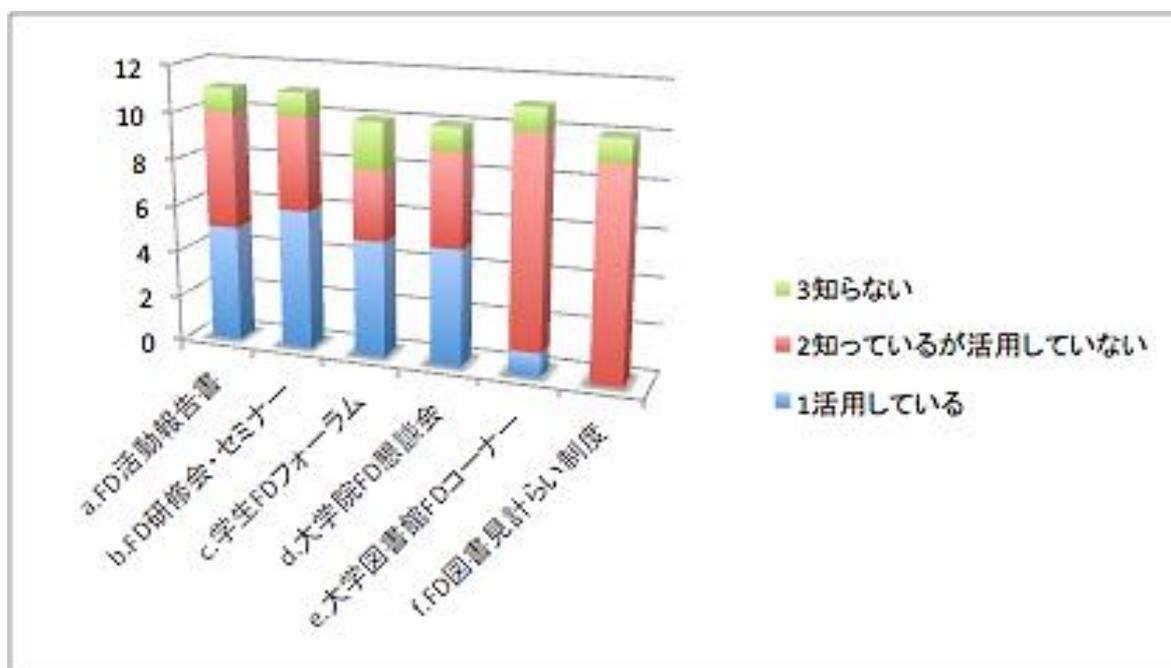
本年度、武蔵大学で実施されたFDフォーラム、FDワークショップの参加教職員を対象にFDに関するアンケートを実施した。その結果は以下のようになっている。『授業評価アンケート』『成績評価』『キャリア支援』などが若干高い割合を示し、SDの関心が低い値がでているものの、押し並べてFDに関するトピックスは極端な有意差無く、関心があると見て良い。もっとも今回の調査対象が、学内FDイベントの聴講・参加者であることによる偏りも考慮しなくてはならない。

図：武蔵大学教職員のFD・SDに関する関心項目（2013）



次に、既存の武蔵大学のFD活動についてどの程度認知しているか、また活用しているか調べてみた。結果は次のグラフのようになった。

図：武蔵大学教員のFD活動認知度と活用実態(2013)



まず、年次ごとに発行している『FD活動報告書』が、教職員にとって授業改善や授業開発の武蔵大学の現状を知る『情報共有ツール』の重要な役割を担っているが、そういった啓発が不十分なことが数字に表れている。FD啓発とともに、教職員がFD活用に関心を引くような報告書の内容を再考する必要があるかもしれない。また図書館にFD機能を持たせる試みを昨年から行っているが、本年度実施したFD図書見計らい制度などの活用が無いことは、武蔵大学の“FD広報力”の弱さを露呈しているともいえる。FDにおいて“全学的な取り組み”ということ、画一的な強制的な手法と誤解・誤用されるケースも少なくないが、もちろん学問領域ごとに教育目的が異なるために、その必要性は無い。しかしながら、大事なことは教職員間で情報共有されているかどうか、旧来の個別の取り組みと全学的なFDと大きな差異となる。大学全体で取り組むべき課題や有益な情報をFDとしてリードしていく役割が理想のスタイルのひとつと考える。結果的に教職員が新たな業務を増やすのでは無く、これまでの研究、教育、事務などとFD・SDを結びつけていくことで、効率の大学のブランド化が実現すると思われる。そのためには、現状の武蔵大学のFDの弱さは、FDコンテンツ不足では無く、情報共有力と情報発信力が課題としてあげられる。

実際に、これまでFD先進校と言われている大学を視察してきた結果、武蔵大学にも他に劣らない教育コンテンツが数多くあることが再確認できた。しかしながらそれらが散在的な状態で、学外での認知が低く、また学内での“全学的なFD”の活性や意識も低い。これらの啓発を強化すると共に、教育力のブランド化を充実させ、学内の教育改善に留まらず、学生募集や就職にも、その魅力的な取り組みや理想的な教育・学習環境があることをアピールし、FDを2次的に応用できるようなものに昇華する情報発信力を目指すことが重要となるであろう。

3. 平成 25 年度事業報告書／平成 26 年度事業計画書 (FD 部分)

【はじめに】

第二次中期計画が展開中であるが、大学の経営戦略のなかで、FD活動についても2項目にわたり重点事業として位置付けられている。FDの積極的展開、FD実施体制の整備、という諸項目である。この第二次中期計画を元に、平成26年度事業計画として以下の事業が立てられた。これは今後のFD活動にとっても重要な資料となるので、平成25年度の総括と平成26年度への課題という形で整理し、掲載することにした。

【1】FD (ファカルティ・ディベロップメント) 研修と大学院FDの充実

①目的・概要	FD (ファカルティ・ディベロップメント) 研修及び大学院FDの充実を図る。
②活動計画	<p>①FD研修会を年3回開催する。このうち1回は、(学内、学外を含む) 教員相互の教育に関する情報交換会、1回は公募による学生参加のFDフォーラム、1回はFD研究員による講演会として開催する。</p> <p>②教員のニーズと実態に即した初任教員向けFD活動を検討し、引き続き学外の初任者研修会への参加を促すと同時に、FD関係の図書を利用しやすい形で準備すること、学内での初任者向けFD研修会の開催などを試みる。</p> <p>③大学院FDとして、授業改善に焦点を当てた院生との懇談会を行い、大学院の教育研究の充実を図る。</p>
③実施結果	<p>①FD研修会を以下の通り年3回開催した。</p> <p>11/28 : GPAをめぐる成績評価を考える (同志社女子大学 山本寿教授)</p> <p>2/27 : FDフォーラム「学生と共に考える授業改善」</p> <p>3/24 : FD研究員調査報告会</p> <p>②11/13にIT関連企業の講師によるFD講習会を開催し、テーマを教材作成方法等の基礎的な内容に設定した。図書館に、初任教員向けの図書を多数配架した。学外で実施された初任者研修会の参加者はいなかった。</p> <p>③7/30に大学院FD懇談会を実施した。昨年度よりも教学に関する要望が多く出され、FD実施委員会でこれに対する回答をまとめ、11月末に大学庶務課を通して院生の代表に回答書を手渡した。</p>
④分析	<p>大学図書館「FD教育支援コーナー」への図書の購入を来年度以降も継続する。</p> <p>学外初任者研修会への周知は行っているが昨年度同様参加者はいなかった。これを踏まえて来年度からは、新任教員に対するFD研修を行いたい。</p>
⑤来期(平成26年度)の計画	<p>①4月に新任教員のFD研修を実施する。</p> <p>②FD研修会を年2回開催する。このうち1回は公募による学生参加の</p>

	<p>FDフォーラムとして開催する。また、年度末にFD研究員の調査報告会を開催する。</p> <p>③大学院FD懇談会を年1回開催し、授業改善に焦点を当てた院生との対話を行って大学院の教育研究の充実を図る。</p>
--	---

【2】 授業評価アンケートの展開

①目的・概要	授業評価アンケートの改善を図る。
②活動計画	<p>①前年度授業評価アンケートの内容・対象科目について、変更を行った上で実施する。</p> <p>②授業評価アンケートの学生へのリプライ及び授業へのフィードバックについて、大学ウェブサイトに公開したアンケート分析結果への反響を調査の上、立案する。</p>
③実施結果	<p>①授業評価アンケートの設問内容を変更し、前学期1回のみの実施とした。</p> <p>②昨年から引き続き、アンケートの分析結果としてFD活動報告書の当該箇所を大学Webサイトの「FD活動」内に公開し、さらに、アンケート結果のフィードバックとして、昨年度に実施したアンケートの自由記述欄に書かれた施設関係の改善要望をまとめ、財務部に提言を行った。</p> <p>③「武蔵大学「学生による授業評価アンケート」取扱内規」を一部改正し、アンケート集計結果データ等の貸与について、より明確に規定した。</p>
④分析	<p>授業評価アンケートの設問については、経年分析を行う都合上、今後数年間は変更を行わないこととしたい。また、後学期に単独で開講する科目のアンケートが実施できないことは改善の余地があるが、予算の都合上、当面は前期開講科目のみの実施としたい。</p> <p>授業評価アンケートの展開に関する事業は、今年度で一旦完結とする。</p>

【3】 他部局との連携によるFD活動の多角化を図る

①目的・概要	本学の教育的機能を高めるため、ニーズと活動可能性を検討し、有機的に機能するよう概念化する
②活動計画	<p>①他部局（学生生活課、教務課、Voice委員会等）の情報を集約し、授業改善に役立つ情報をまとめ、教職員が共有できるように発信を行う。</p> <p>②図書館、MCV、国際センターなど、他部局との連携により、本学の教育活動の有機的連携を図る。</p> <p>③個別に行われてきた教育ツール（教科書、学習の手引き等）の開発等を大学全体の財産とするような情報共有の仕組みを構築し、学内外に発信する。（教育ツール開発支援活動）</p> <p>④他大学、教育系諸学会の情報等を収集すると共に、本学の活動</p>

	の独自性を発信する。
③実施結果	<p>①学生生活課と連携し、特別奨学金選考課題レポートの集約を行った。</p> <p>②大学図書館と連携し、教員の教育改善のための共用の場として「FD教育支援コーナー」を設置し、FD関連図書を選書して配架した。選書に当たって、教員自身が積極的にFDに取り組むための「FD関連書籍見計らい制度」を実施した。</p> <p>③検討はしたが、実施には至らなかった。</p> <p>④FD先進校の大学を視察し、FD研究員調査報告会等で教員に情報を還元した。</p>
④分析	FDに関して、武蔵大学独自の他部局との連携・協力体制の一つのモデルができつつあるが、今後さらなる拡大や充実、実績の構築が期待できる。全学的な取り組みと言えるようになるためには、まず、これらの情報共有、浸透性がFD活性化の大きな鍵と思われる。
⑤来期(平成26年度)の計画	<p>①これまでFD研究員がFD先進校と言われている大学を視察し、さらに本学専任教員にFDに関する調査を行ってきた結果、本学にも他に劣らない教育コンテンツが数多くあることが再確認できた。しかしながらそれらが散在的な状態で、学外での認知が低く、また学内での“全学的なFD”の活性や意識も低いことから、これらの本学の教育コンテンツを一元化して資料にまとめて学内で共有する。</p> <p>②他大学、教育系諸学会の情報等を収集し、学内で共有する。</p>

【4】FD活動と教学マネジメントの連携体制の構築（平成26年度新規）

①目的・概要	組織的な教育改善マネジメント
⑤来期(平成26年度)の計画	<p>FD実施委員会の活動によりもたらされる成果を、組織的な教育改善マネジメントに連携される体制を構築する。</p> <p>FD委員会において、①授業評価アンケートの分析結果、②大学院FD懇談会、③学生参加のFDフォーラムに基づく検証を実施する。</p>